

第313回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成26年12月1日(月)午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員8人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
村松 敦	委員	新谷 達夫	委員
碓井 真史	委員	原田 健一	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員

会社側出席者

代表取締役社長	室川 治久
取締役編成局長 兼 番組審議会事務局長	須佐 博樹
取締役(報道・制作・国際担当)	平野 真一
執行役員報道制作局長	稲田 裕之
報道制作局制作部長	小木 裕介
報道制作局 合評番組プロデューサー	芝 至

事務局	増子 隆	水野 明子
-----	------	-------

4 議 題

1) 番組合評

「つなぐ絆 明日へ

～中越地震 ひき裂かれたムラの10年～

[放送：10月18日（土）10:30-11:25]

(説明：番組プロデューサー 芝 至)

2) 会社報告

①10月の視聴者の意見 (報告：番組審議会事務局)

②講じた措置、公表など定例報告等 (報告：番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、中越地震から10年の番組企画として、児童3人が犠牲になった小千谷市塩谷地区に焦点をあて、遺族、集落を離れた人、残った人、それぞれの想いを伝えながら、阪神大震災の被災者や東京の女子大学院生との交流など、地震後に生まれた動きなどを通して被災集落の10年を描いたものであり、住民の奮闘、地震後に生まれた絆、離れてもふるさとを想う気持ちなどを感じていただけるように制作したという説明があった。

- 登場する一人ひとりの想いが非常に素直に伝わってきた。普段のニュース報道ではわからない、本質的なものを見ること

ができて、感動したと同時に有意義であった。

- 誰が中心で物語が流れてゆくのか、見ている側の想いがバラバラになるのではないかと思ったが、見終わると、内容的にバランスよく、まとまっていた。途中から出てくる外部の人間に焦点をあてることで、地域の人達の想いが逆に伝わってきた。
- 番組タイトルにある絆という言葉は、いい言葉ではあるが、押しつけていけない概念だと思っており、絆という言葉に身構えてしまう人もいると思う。いい素材がたくさんある番組なので、見終わって、絆をじわっと自然に感じさせる方がよかったのではないか。
- 大学院生の移住の目的が、番組内の説明では、わかりにくかった。
- 出てくる人の家や家族のことがわからない部分があって、プライベートな点で難しいところもあると思うが、映像にしなくとも多少の説明があった方がよかったのではないのか。
- 絆は、東日本大震災後の言葉だが、これで、中越地震を語ってよいのかと疑問を感じており、番組の中で出てくるのはよいが、タイトルに使用するのが果たして適当だったのだろうかと思っている。
- 固い絆で手を取り合っという理想論的な絆ではなく、必ずしも明るい将来がなく、現実として色々なことが起きている中でも絆があるというメッセージを感じ取った。また、復興ということについても、街が元に戻る、人が来てにぎやかになることとは違う、別の形の復興という意味で、あらためて復興とは何かを考えさせてくれた。

- 中越地震というと、山古志へ目が行きがちだが、当時の記憶が風化する中、塩谷を取り上げた選択はよかった。
- 復興とは何か等、専門家の意見を取り上げることをせず、地域の人達の言葉だけで繋いでいったことに好感が持てた。地域の人達の話す言葉が素直で、取材者との信頼関係も感じた。
- コミュニティとは何か、コミュニティ再建の大変さを感じた。特に「みんな苦しんで出ていったんだ、ムラを捨てたんじゃない」という映像が印象に残った。
- 一人ひとりの取り組み、生き様などが、地域全体として、どのような形となっているのか、課題は何かなどを番組後半でスポットあてると、全体のストーリーとして訴えるものが出てきたのではないか。
- 塩谷地区だけを取り上げて、55分の番組で放送することは中央のテレビ局ではできない、ローカル局の良さだと思う。これからも、忘れないように、また新たな発見できるような番組を続けていってほしい。
- ストーリー立てがうまくいっていると感じた。絆とは何かを問いかけていて、10年間の時の流れが絆の意味を変えていった。同じ境遇の人と人がわかり合う絆からスタートして、人と生き物、家族、共同体など、様々な絆の世界へ展開し、希望を持って歩んでゆくことが本当の意味の絆を作ってゆくのではないかというストーリー立てを感じ取った。コミュニケーションの悪い昨今に対し、10年間に渡る、絆の意味を問いただしているように感じた。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

10月…… 228件

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成26年10月27日)から昨日(平成26年11月30日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第312回審議会では、「離島甲子園 僕たちの夏」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第313回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・10月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・民間放送新聞(11/3、13、23号)
- ・BPO報告 NO.142

以上